

(1) 昭和61年8月11日

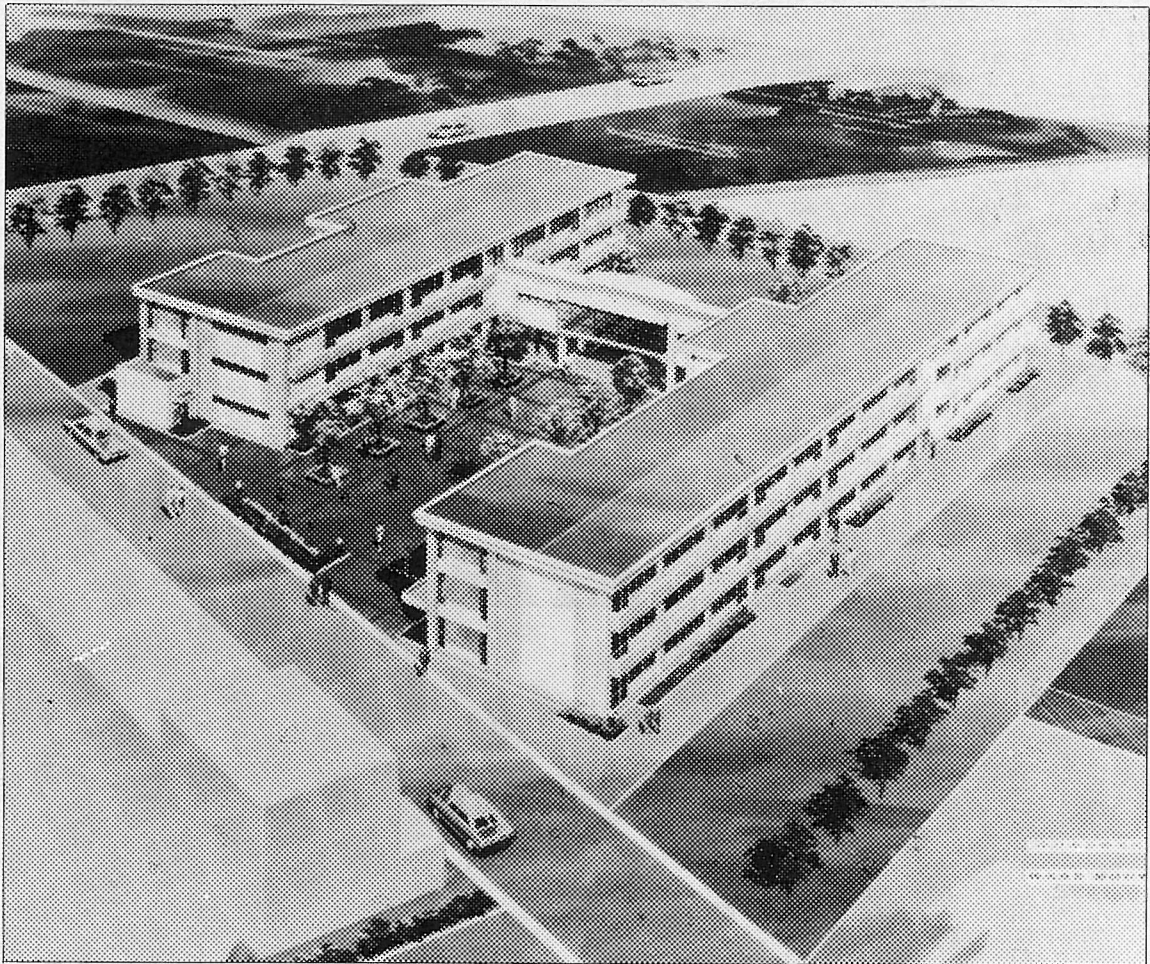
学 友 会

学 友 会

会報

第5号

発行 中日本自動車短期大学学友会事務局
〒505 岐阜県加茂郡祝町深室1301 ☎(0574)26-7121



新教育棟 完成間近!!

会報発刊にあたって



中日本自動車短期大学
学友会会長

本 田 紳 基

本年も会報を発刊する時期となりました。会員のみなさま方におかれましては、増々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて昭和六十年度の事業計画も順調に実施されております。

母校においては、日本で最初に開設された車体整備コースも軌道に乗り、また昨年開設された電子機械コースも大変好評に聞いております。志願者数についても、昨年にもまして増加の傾向にあり喜ばしいかぎりです。

母校も明年には設立二十周年を迎えるわけですが、学園本部を中心に、学長・理事・教職員一丸となって準備がすすめられていくと聞いております。学友会もこの記念すべき年度に向けて、大学側との共同事業と併せて、学友会独自の事業計画を検討中であります。

す。

なおここ当面の重要課題は依然として支部拡大にあるわけですがこれも順調に進んでおります。ただし誠に遺憾に思いますのは地元である岐阜・愛知・三重県下においてまだ設立されておられないことで、最重点地域として、支部設立に向けて努力致したいと思えます。

なお現在設立準備が進められている兵庫・静岡・北陸・長野・山梨ならびに神奈川については、組織をあげて支援・協力して行くつもりでおりますので関係諸兄の一層の奮起をお願い致します。

また話しが少々大きくなるようですが、これまでに多数の海外留学生が卒業され、各々自国の発展のために活躍しておられます。そういう人たちの励ましの意味も込めて、海外支部設立を進めねば

と考えております。

前述の通り母校も明年には開学二十周年を迎えるわけですが、B諸兄の中には、社会的にも認めらるる地位に就かれた方も多数あるうかと思えます。どうか今後とも、後輩の就職・入学希望者の推薦など、母校との結びつきを一層

雑 感



中日本自動車短期大学
学 長

中 村 清

会報も第五号の発行、本当におめでとございます。

ことわざに、『待たぬ月日は経ち易い』と言う言葉があります。

これは、待っている時はなかなかやつてこない月日だが、気にせずにいると、いつの間にか遠くに去ってしまうことを言ったものです。

私が本大学に就任したのは昭和五十七年であり、ちょうど本紙創刊号が発行された年で、編集者からのご要請により『生涯教育時代

強固にして、母校共々増々の発展を念願致します。

最後になりましたが、今度の会報発刊にあたり、多大なるご協力ご援助を賜りました大学関係者並びにO・B諸兄に対して心より厚く御礼申し上げます。

- (一) 開かれた高等教育機関
 - (二) 高等教育の国際化
 - (三) 特色ある高等教育機関
- の三つであり、これがいわゆるこれからの『期待される大学像』となるわけで、今後の栄枯盛衰を考える上で大変重要な課題としなければならぬことになってきます。そこで今回は、この中の(二)の高等教育の国際化について、少し触れてみたいと思います。

私は、短期大学と言う立場で論ずる限り本学での国際化は、実に活発でトップクラスにランクされるものと自負しています。

自動車工業科という特色によるところも多いのですが、正規の留学生だけでも、既に四十六年五名(タイ・マレーシア・台湾)が入学して以来、本年までに四十九名を数えています。

正規の留学生でない短期(数か月)の研修生まで入れるとなるとその数はたいへんな数になります。本年だけを例にとっても、留学生は、六十年入学の二年生七名、六十一年入学の一年生三名、研修生は九名で、国籍もタイ・マレーシア・インドネシア・台湾・ブラジル・フィリピン・チェニアと

多彩を極め、キャンパス内を約二

十名の外国籍の学生や、研修生が闊歩している状態であります。

又、一昨年の秋、中国汽車(自動車)工業公司教育考察団一行が来学視察され、昨秋には、本学視察団が訪中し、本年三月には、再度中国考察団が来学され、現在、今秋本学に対し訪中団の再招請を受けているといった状態です。

次に、本学に於ては、外国語教育の一端として、ハワイ大学から特別講師を招聘して、英会話教室(二カ月)を開き、学生や教職員に対し英語への親しみをたすように努めております。この計画も本年で四年目となり、まず軌道にのったものと見做しています。

以上述べた如く、本学の国際化は、確実にその歩を一步一步進めているのが現状です。



中日本自動車短期大学
局長 杉浦 慎宣

キャンパス 計画Ⅲ

学友会報紙上で本学のキャンパス計画をお知らせするのは、今回で三回目と言うことになりました。そこで今回は、今までのまとめ

と、現在の流れについてお伝えしたいと思えます。

昭和五十七年五月の理事会で承認された「中日本自動車短期大学十九年計画」は、二十一世紀に向けて新しい展望を拓こうとする壮大なもので、開学二十周年に当る昭和六十二年をひとつの節目として、教育環境の整備拡充を目玉に、学科増を伏線とするコース別カリキュラムの具体化等を積極的に推進すると言ったものでした。

この計画に従って一番最初に着手したのが学生寄宿舎「敬愛寮」の建設です。「たった二年の辛抱だ」と言うことで、学生諸君の忍従に依存して来た結果、学内寮も周辺の下宿や寮も、時代から取り残されたような劣悪な状態となつて、抜本的な対応が急がれていたからです。

風光明媚な木曾川畔に、鉄筋コンクリート三階建、収容人員一〇〇名の、冷暖房を完備した近代的な学生寮として五十八年八月に完成し、現在に至っていますが、完成直後の九月二十八日、当地域が未曾有の木曾川大氾濫に遭遇し、「激甚災害特別対策地域」に指定されたことから、無被害であった敬愛寮も、対策築堤事業に収用さ

れることゝなつてしまいました。

そこで明六十二年三月には、大正門前すぐ南側の歩いて三分と言ふ所に、シングル五〇室、ツイン五〇室のほか、随所に近代的構想を盛込んだ豪華版に生まれ変わつてお目見栄することになっていきます。

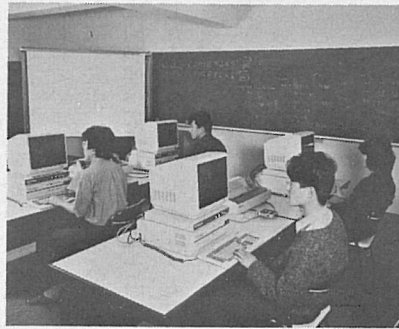
この計画と併行して進められたのがコース別カリキュラム具体化の第一弾「車体整備コース」で、五十八年十一月八号館跡に、日本ではじめての車体整備教育棟IIボディ・リペア・トレーニング・センターの完成を見ました。

省エネ・軽量化に対応するモノコックボディの採用やFF・4WD化に対処するためのボディエアリメントや車体修復の理論と実習を実現した、大変ユニークな新教育施設が誕生したわけですね。

これに続いて行われたのが「総合グラウンド」の新設です。総面積二万平方メートル、野球場、サッカー場のほか、陸上競技場の公認基準第三種を計画の基礎として、直線一三五メートル(七コース)、三〇〇メートルトラック(六コース)を確保し、階段式の観覧席をも備えた本格的設備で、一年余の工期を経て、六十年十月に完成し

ました。

総合グラウンドの新設と併行して進められたのがコース別カリキュラム具体化の第二弾「電子機械コース」で、六十年四月から準備に入り、九号館(九百三十四教室)を改築して、六十年四月開講の運びとなりました。



コンピュータ、計測機器、ロボットなどを導入し、カー・エレクトロニクスはもろろん、各方面に幅広い対応のできる整備士教育を目指したものです。 続いてさらに、六十年二月十三日に起工式を済ませ、後期の授業に間に合うよう急ピッチで進めているものに新教育棟の建設があります。

鉄筋コンクリート三階建、二棟の規模で、一般講義室十二室のほか、合同講義室、電子機械コース

特別教室三室、教員研究室三十三室、それにゼミ室も折り込み、設備面でも全教室が視聴覚設備対応型と言う多目的施設となつており、この会報が会員諸賢のお手許に到着する頃には完成の予定です。

これに続く計画としては、実習教育の見直しと、実習教育棟の全面的建替え工事です。鉄筋コンクリート二棟、重量鉄骨ALC平屋建二棟の規模で、現在設計のための詳細な計画を調整中であり、明年度早々の着工予定です。

そのほかにも、学生ホール棟、管理棟の建設など、新しい計画が目白押しで、母校中日本自動車短期大学のキャンパスは、開学二十周年を契機として大幅にリフレッシュされ、面目を一新することになっていきます。



新実習棟完成予想図

平野理事 文部大臣 海部俊樹と対談

教育も国際化をめざす時代だ!!

文部大臣 海部俊樹氏の

プロフィール紹介



文部大臣
海部俊樹

昭和6年 愛知県一宮市生まれ
昭和29年 早稲田大学法学部卒業

昭和35年 衆議院議員に初当選(全国最年少)、以後9回連続当選

昭和60年 10月には衆議院永年在職議員表彰を受ける

昭和49年 内閣官房副長官(三木内閣)
昭和51年 文部大臣(福田内閣)
昭和60年 文部大臣(中曽根内閣)

今の若者たちに、

思いやりはあるのか?

平野 今日はお忙しいところ、私も神野学園のためにお時間をいただきまして恐縮でございます。臨教審でのご活躍は大変でしたでしょう。

海部 各種の世論調査でも教育改革への期待が高いですからね。中曽根総理からも「教育改革は内閣の最重要課題であるからしっかりとやってほしい」といわれていますし、私としては最善を尽して取り組み、みなさんのご期待に応えていかなければと思っています。

平野 私が大臣に初めてお会いしたのは小学三年のときで、その時、大臣は早稲田大学の学生さんでした。で、ご無理をいって夏休みの宿題をみてもらったのですが、そ

の際に私にとっても心に残ることをおっしゃってくださいました。

海部 どんなことをいったのですか?

平野 「遊びも大事だけど、勉強もしなさいよ」って……。その言葉がずっと私の頭のなかに焼きついて、大きくなるにつれて教育に対してだんだん関心を持つようになり、神野学園を設立する大きなバネになっているんです。

海部 それは初耳でしたね。少年時代に強烈に感じたことというのは、本当に自分の将来を開いていく大きな力になるものですね。

実は、私の少年時代は自分自身が志を立てて、自分はひとつこの方面に進んでいこうと、お互いがそんな雰囲気を持っている時代でした。たとえば、友達のために何かしてあげよう。人生というもの

は、こういう方向で仕事をしたや世の中のためになる人間になれるんじゃないかという、中・長期的な目標をみんな持っていました。

だから「今のようにならぬ流れに身をまかせて楽しいことや面白いことだけで時間を過ごしている子供たちを見ると、つい、それではもったいないよ」といつてしまふんです。

平野 本当ですね。ところで大臣は早稲田大学のご出身ですが、現在の学生については、どのように思われていますか。

海部 去年、早稲田大学の入学式に何か述べてほしいと依頼されたので、今お話ししたようなことを基盤に、いちばん多くのことを学べる青春時代はあつという間に過ぎてしまうのだから、きちんと志を立てて、一日一日を大切に過ごしてほしいという話をしました。

平野 学生時代から燃えるような志をお持ちだったからこそ、現在の大臣があるわけですね。

海部 初めにも申しあげたように、自分の楽しみとか、喜びだけではなく、友達のために何をやってきたかという気持ちさえあれば……と思えますね。今、私がいちば

ん心を痛めているはじめの問題も、友達に対する思いやりさえあれば、原因はいろいろあるにせよ、大半のことは片付くのではないかと思っています。

平野 大臣にも少年時代に何かに行き詰まったとか、精神的にいろいろ悩まれたことがおありだったと思いますが……。

海部 私の人生で最初に挫折を感じたのは、中学の入学試験に落ちたときです。名古屋の愛知一中(現在の泉立旭ヶ丘高校)を受けたのですが、九名が受かり、二名が落ちました。その一人が私だった。あの時くらい悔しかったことはなかったですね。何しろ私は級長だったのですから……(笑)。

平野 それでどうされましたか。

海部 何で救われたかといいますが、母親が「学校はこだけではないのだから、メソメソしないで泣くほど悔しかったら、長い人生だから一生懸命頑張って、みんなを追い越せばいい」といって、慰め励ましてくれました。

平野 いい、お母さんですね。

海部 その時の母の態度と言葉が私の生涯にとって、いちばん教育的効果があったと思います。去年、衆議院の予算委員会を党を代表し

た。で、ご無理をいって夏休みの宿題をみてもらったのですが、そ



21世紀の教育を考える……

国際化時代だから、

※この記事は5月24日キャッスルホテルにて平野理事がインタビューされたものです。

で中曽根首相に質問しているときにも、そんなことをふっと思い出しました。

教育は心の通い合いが

基本的なことです

平野 ところで教育改革の問題ですが、大臣は教育というものは何がいちばん大切だとお考えですか？

海部 要は、親子の心の通い合い、教師と子供との心の通い合いとか、すべてに大人社会と子供社会というものが、どんなところでも心が通じ合っていることだと思います。

大人も子供も、友達が挫折したり、くじけたりしたときに励まし合い、曲がった道へ行ってしまうようになったら、「ちょっと待った」とブレーキをかける。方法が間違っていれば修正する、そういったものが社会全体のなかに、きちんとしたルールとしてあるべきじゃないでしょうか。

平野 そうですね。だから学校教育においても、もっと温かみのある人間教育が大切なんじゃないかと、私は思うのですが……。

海部 大人は、自分の身の周りでそれをしかけていかなければならないし、子供は志を持ってこの道を行こうと思ったらどンドン伸びていく、そういった相関関係や相

互の協力関係というものが、社会全体をみずみずしいものによみがえらせるのだと、私の体験のなかから確信を持っています。

平野 そういふことをいえる大人って少ないですね。大人に限らず、子供たち同士でも必要なことなのね。

志を持つことの喜びと

大切さを教えたい

平野 ところで、大臣は子供の頃から今のお立場に立たれると思っておられましたか？

海部 いえいえ、大臣になるなんて夢にも思っていないませんでした。私は中学一年生で終戦を迎え、実家は写真屋でしたが、戦後の混乱期は家業を継ごうなどという安易な方法ではとてもダメな時代でした。

あの頃は価値感が大変動しましたし、教育課程も直ちに切替がつかないし、私の仲間には非常に高い理想を求める連中が多くて、いろんな時の流れを体験しながら、やはり何事かをしなければという熱い議論を繰り返しました。

当時には物質的にも非常に貧しかったですからね。もう少し豊かに、そして幸せになる方法は何だろうか、ということが私ども仲間

同士の最大の関心事でした。そういうものが高じて、弁論大会での演題にもするようになり、ますます考えを深めていくなかで政治家になろうと決心したわけです。

つまり、政治への関心と、その方向へと「志」を立てて歩みたいと思うようになったのです。今、振り返ってみると、自分自身の初志を貫くことができて本当に幸せ者だと思っています。

平野 中学生の頃に抱かれた目標がそのまま貫かれ、大きく花開いたのですから、すばらしい人生ですね。

海部 ありがとうございます。幸い、こうして大臣にもなり、さらに去年、私が二十九歳で初めて代議士に当選してから勤続二十五周年の「掲額議員」として本会議の場で表彰を受けることもできました。まもなく国会議事堂のなかに肖像が掲げられます。

平野 本当におめでとうございます。

国際化をめざす

神野学園に期待

平野 最後にこれからの教育についてのお考えを卒直に話していただけますか？

海部 教育の面で日本がいちばん

遅れているのは、高等教育のなかの学問の基礎研究の分野だと思えます。

教育の果たす終局的な役割は、基礎研究の峰をうんと高くして、人間生活の質の向上をさせていくことですからね、高次元の国際交流を確立していくことは、とても意味のあることだと思います。

平野 神野学園では、海外からの学生を積極的に受け入れていますが、このことは同じキャンパスで学ぶ日本の若者にとっても非常に意義のあることだと思うのです。現代は国際化時代といわれ、あらゆる方面で国際化が叫ばれていますが、教育の面でこそもっと国際化をめざさなきゃ……とも思うのですが……。

海部 そうですね。今、日本は技術の面ばかりスポットが当たっていますが、優秀な技術者を育成している神野学園のような専門学校で、グローバルな教育成果をどんどん上げていただきたいものですね。

平野 まだまだこれから……といった感じですが、頑張らさせていただきます。今日は本当にお忙しいなか、ありがとうございます。

二級整備士 合格 率

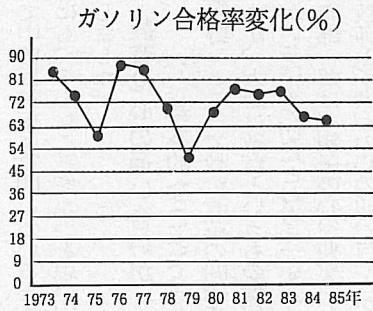
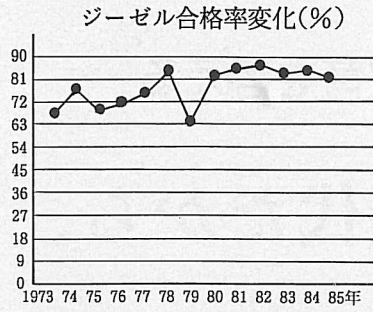
研修 課

本学卒業直後に実施される認定試験は民間試験です。

自動車整備士資格を取得するには、認定試験合格後において国家検定の申請を行なう必要があります。

この場合、認定試験に合格した日から二年間はその合格した認定試験の種類に対応した国家試験の学科試験が免除になります。

したがって、自動車整備技術講習修了者(実技試験免除者)で認定試験合格者は国家検定申請のみで自動車整備士資格を取得できます。



この試験制度が実施されて既に十二年が経過し、本学合格者も約五、〇〇〇名に達しました。

過去十二年間での平均合格率も約八十%と高く、増々、社会での活躍が期待されます。又、同時に社会的な責任も高くなってきます。

こうした中で、本学の受験対策も種々検討され、いくつかが実行されています。私たちはより質の高い有資格者を社会に送り、社会的責務を果し、社会的評価を高める環境が早く生まれることを期待しています。

尚、自動車整備技能講習では毎年、成績の優秀な者に対して賞状及び賞品を授与しております。

マレーシア人研修生について

大 脇 澄 男

本年六月二日よりマ国よりの国費研修生五名が本学にて研修を受けています。マ国のマハティール首相は大変な親日家であると共に、敗戦国である日本が、文字ど通りの灰の中からわずかに四十年で世界経済大国になったことに大変な関心をお持ちです。

そこで、毎年二百名を越える研修生をあらゆる産業分野に亘って派遣し日本の進んだ技術は勿論のこと、日本人の労働倫理までも学ばせ自国発展の原動力にしようとしています。本学は第四陣、第五陣共各一名づつ受け入れてきましたが、これらの実績が買われて今回のように一度に五人もの研修生を受け入れる結果となったものと思います。

各研修生は職場からの推薦を受けて、厳しい試験にパスし、更に国内において、七ヶ月間の日本語の特訓を受けてやってきた秀才ばかりです。聞くところによると、日本語の修得が難かしく所定の水準に到達せずやむなく日本での研修をあきらめざるを得なくなる候補生もかなりあるそうです。確か

に彼らの日本語は七ヶ月という短期間にしては驚くほどに上手です。ところで、マ国はイスラム教が国宗の国ですが、彼らはこの教えを大変よく守ります。ラムダンと呼ばれる断食をはじめとして、豚肉(ソーセージなどの加工品もだめ)を一切口にしないほど、それは厳しいものです。手当りしいに何でも口にしてしまう我々日本人から見ると、何もそうまでしなくても、と思うほどですが彼らはそれで一向に平気のようです。むしろ我々のように「郷に入らば郷に従え」式の考えで、神や仏のことなどすっかり忘れてしまうことの方が主体性がなく軽蔑されるべきものと反省させられるほどです。本学での研修が彼らにとって実



りの多いものであることを、またよい思い出にすることを願ってご報告と致します。

ハワイ研修旅行

鈴木敦 巳

本学が開学されたのが、昭和四十二年四月。この十二年程の間に、世界の色々な国々から様々な人々が、本学へ留学生として、あるいは研修生として学びに来たし、現在も学んでいる。本学が、世界の自動車工学の最新技術を教える大学である以上、今後この事は続くであろう。このような性格を持つ大学の教職員や学生にとって、外国や外国人との交流、交際は、とりわけ大切であると思う。

本学は、今までに「ヨーロッパ・アメリカ研修旅行」をはじめ、東南アジア諸国を、多くの教職員が訪問して来た。

最近では、昭和五十九年から始まった「ハワイ研修旅行」が、学校行事としてすっかり定着してきました。もともとは、同じ学園の岐阜医療技術短期大学が、教育の一環として行なってきた海外研修に本学と中日本航空専門学校が、二年前から加わったものである。

今年で三回目になる合同の「ハワイ研修旅行」に参加した学生は、一三〇名に及ぶ。この研修の目的は、まず第一に、国際的な視野を



拡げること、言葉で言えば簡単なことだが、何が「国際的」なのかは、大変むづかしい。とにかく、短時日(六泊八日)ではあるが、日本を離れて何かを感じ何かを考えさせたい。これが第一の狙いである。

次に、アメリカの自動車に関すること。単純に自動車と言っても、車の歴史・生産・販売・整備・車体・コンピューター・設計・保険等々、どの角度から研究しても大変なことである。ほんのわずかな研修期間だから、これを絞って、本学と同じように自動車の整備を教えている二つの短期大学の見学と、ディーラーの見学。それに、ハワイ大学で「アメリカの保険について」の講演会。これは自動車に関する保険を中心に勉強する。

第三に、語学研修。ハワイはアメリカ合衆国の一つの州でありながら、大変特異な州である。日系人が三分の一程しめる、言わば日系社会である。ハワイのことワイキキだけなら、一言も英語を使わずに済ませようと思えば済んでしまう所である。しかし、ワイキキを一步離れば別の話である。英語の特に話すことに限って言えば、それを勉強するにはあまり適当な所ではない。しかし、はじめて外国に行き、英語をはじめて使う人にとっては、最適な外国である。若い学生諸君は、自分の口からでた英語が、相手に通じた時、ほんとうにうれしそうである。それが自信につながる、もう一度英語の勉強をやってみようと言う気持ちを持って、これで大いに成果があったと言える。初めて外国人と英語で通じた時のよろこびは、だれでも一生忘れない。以上、三つの大まかではあるが、ハワイ研修の狙いである。具体的には、毎年夏休みに、六泊八日の日程で、ハワイ大学やホノルル、リーワード両コミュニティーカレッジとディーラーの見学。ハワイ大学の学生とのパーティー。ポリネシア文化センター、シーライフパーク、海水

浴、サンセットディナークルーズ、等々、大いに学び大いに遊ぶ、それも非常に安い費用で有意義な旅行です。

卒業生のみなさんも、同じ費用で参加できます。今後もハワイ研修旅行は続けていくつもりです。ぜひ参加して下さい。

OB近況

18期卒業生 勝田久仁彦

学生生活に別れを告げ、ダイハツ工業に入社してから早三ヶ月が過ぎようとしています。念願の自動車メーカーに就職出来、配属も希望通りのエンジン部でした。

中日本短大で学んだ整備技術を基礎に、自分の能力を伸ばせる場所は、自動車の心臓エンジン部だと思ひ希望したのですが、業務内容は耐久テストの実験担当が主です。現在担当しているエンジンは、この先何年か後に世に出るエンジンなので、実習とは又違ったおもしろさがありますが、自分自身か思っていたエンジン部とは少々違っていました。でも組織の中の一人ですから、与えられた仕事を確実に熟し、自分のやりたい職場を目指して一歩、一歩前進して行く

うと思っています。実社会はやはり厳しいものです。苦しいと思った学生時代が今は懐しいです。中日本自動車短期大学の名を汚さぬ様、又良き後輩のためにも頑張っていきたいと思っている今日此頃です。

在学生

今回は、現在々々中の女子学生九名の内、二年生四名に登場してもらい、本学に対する感想、学生生活、将来についてレポートしてみました。



落合佳代

私が、本学に入学して、一年が過ぎました。考えてみると、ドタバタしている間に、一年が過ぎ去った様に思います。

本学に、入学を決意したのは、車に魅力を感じていて、誰よりも車のことを、よく知りたいといった。極単純な理由からです。しかし、この決意に賛成してくれる人は、ほとんどと言っていい

いほどいかなかったのです。でも、私の決意は、堅く変わりませんでした。そして、必死に説得した結果、「自分で選んだ道だから、精一杯頑張る。」という約束の下で、許してもらいました。そういう事で、本学に、入学した訳ですが、やはり男の人ばかりの中での勉学は、かなり厳しいものでした。

しかし、みんなが協力してくれるので、どうにかついて行けるようになりました。

私は、本学に入学して、良かった事が多く、本当に自分の意志を貫らぬいて良かったと思っています。

そして、残り少ない学校生活を精一杯頑張りたいと思います。



荒尾みどり

ついこの前、入学したばかりと思っていたのに、あっという間に一年が過ぎてしまったという感じ

です。入学時は、希望と不安がいつもうずまく毎日で、女性が男性の中に混って、車の整備が出来るのだ

ろうかと思いました。私は、普通科高校出身で、車やメカにはまったくの無知なのに、進路を決める時、なにか一つの事にチャレンジしてみようと考え、興味がある事を選んだのです。

それに、一般的に女性が整備をするという考え方が少ないので、その中で、自分がどれだけの地位に立てるか、試してみたいという気持ちがあったからです。

今では、就職も決まり、なんとか自分が考えていた道で、頑張っていける自信がでてきたところで、卒業まで残り少ない日々を男性に負けない位の立派な整備士としての知識と腕を磨き、卒業後の国家試験になんとしても合格しなくては、という気持ちです。

自分の力の限界を、整備士という仕事で、どこまで伸すことが出来るか、頑張ってみようと思っています。



新宅 照美

私は、この学校を卒業したら、二年ほどディーラーでサービスを

し、技術をもっと身に付けて、自動車整備販売業という家業を継ぐ目的を持って、この学校に入学しました。

しかし、昨年の十月の事です。忘れたくても忘れられない事が、起ってしまいました。

父が、突然亡くなってしまい、会社も辞める事になりました。生活も苦しくなり、学校も辞めなくてはならないと思いました。ですが、母や姉が、「学校は、出してあげるからね。」と言ってくれました。

それから、母も外へ働きに出て、姉と二人で頑張ってくれています。そして、親戚の人達、父の親友も力になってくれています。

卒業して家業を継ぐ事は、実現出来ませんが、私は、母や姉を楽させてあげる為、また、親戚の人達、父の親友に、恩返しする為に、そして、亡くなった父の為にも、二年で卒業し、少しでもいい所に就職しようと思っています。



早川 尚里

私の家は、自動車修理工場を経営しています。

それもあって、私は、この大学に入学しました。

最初は、自動車の知識もまるでない私が、やって行けるのだろうか、不安で一杯でした。

実際、実習中には、とまどうことばかりで、みんながやることを、必死で見ていることしか出来ませんでした。

しかし、だんだん日を重ねて行くに従って、少しずつ慣れてきて、友達も出来、不安も減ってきました。実習も、一人では、まだ無理ですが、みんなに教えてもらいながら、なんとか出来るようになり、入学当初は、まったく無知だった私でも、なんとかなるものだと、思う様になってきました。

この学校に入学して既に一年が過ぎ、もう就職して社会人です。社会人になる前におきたいことが、まだまだたくさんあるので、残り少ない学生生活を有意義に過ごし、悔いのない様になりたいと思います。



沖 縄 県

支部について

支部長 徳山 勇

沖縄県人会も発足以来満三年が経過し、本県出身者も二百三十名を超える数となりました。実際に活動しているメンバーは、約三十名程ですが、今後もつと増やしていきたいと思っています。在学中の活動は、球技大会、ボーリング大会、大学祭への参加、そして大行事である「ふれあい旅行」がおもなものである。これらの行事はすべて、本学々生のみならず近隣の大学や職場からも参加されている。以上のように、在学中における思い出作りは、積極的に行われている。またO・Bの方は、卒業後すぐに帰郷する人も少なく、連絡もうまく取れないため、大きな活動はありませんが、年一回(八月)に在生で組織する琉武会が、本島で合宿を行っており、その時を利用してO・B諸氏が合宿先に向き、先輩との親睦を深め、また、社会勉強の場として双方が楽しんでいきます。

今後共、これらの活動がさらに発展し、とくに地元における「たて」のつながりを、もっと深めて

行きたいと思っています。

広 島 県

支部について

支部長 丹地善照

今年の年頭に当り、思うことがありまして、行きつけの書店に立ち寄り計らずも私自身柄にもなく、「高度情報社会と国民生活」と題された一冊を求めました。想い出して見ると、こんな事が書いてあった。

情報エポックの進展は、私達の職場や仕事の仕方も大きく変革して行く。いま企業を巻きこんでいるOAやFAの波は、やがてこの二つを統合した企業オートメーションに発展して行く。その結果、本社や支店、工場をネットワークで結んだトータルとしての企業のオートメーション化が完成するものである、と記憶して居ります。

扱って、学生会広島支部を設立(六〇年五月一日)して、月日の流れは早いものです。一年が過ぎ去りました。

支部設立後のメリットと云えば、各役員諸兄諸氏の積極的な連絡に依り私生活の情報、喜び苦しみ、或は難問題等々と笑いと激励そし

て解決と言った具合、中には商売までに発展して行っています。頼る人、頼られる人、諸々の情報は各所に於いて発展しています。先輩には惜しめない情報の提供を依頼し、後輩には相談に来いと、一人よくよくすると言ったりして、今では萬々屋になりました。此の現状も校友会としての在り方の一端であって当然と思う。

学生時代を振り返り、常に新鮮な初心の志を追憶するこれも、現社会に対応するエネルギーになるのではないでしょうか。学生ホールの新築更らに続く校友会館、大学創立二十周年を前に伸び行く校友会も随所に旗あげされつつあり、私達広島県支部も益々の発展さす為の、夏期研修を兼ね親睦会を開催する予定です。

支部員の諸兄諸氏も暑さに向かい皆元気で、与えられた業務に熱く燃えて頑張っています。其ノ節は支部員が、アッと驚く程の喜びの情報が聞きたいものです。校友会関係諸兄に御協力御指導の栄を賜りますよう、お願い致します。組織団体の力は強力なものです。一日も早く、校友会館の燦然たる姿に接したいものです。惜しみない協力は支部の力の結晶だと思

ます。益々の役員諸兄の御活躍、御発展あらんことを祈念してやみません。

先づは近況御報告迄。

岡山県支部について

支部長 山脇健二

暑中御見舞申し上げます。校友会の皆様、いかがお過ごしでしょうか。

さて、中日本自動車短期大学校友会岡山県支部も昨年九月八日、沖縄県支部、広島県支部に続き全国で三番目に、産声を上げさせていただきます。

設立に当たり、学長先生を初め恩師の諸先生並びに本部役員の方々には、大変なる御助力をいただきありがとうございます。紙面をもちましてお礼申し上げます。

私も卒業して十数年、毎日の仕事に追われ、母校の事も忘れかけていた矢先、広島県支部支部長丹地氏、校友会々々長を初め本部役員の方々の御推薦を受け多くの先輩諸氏の中、大役を引き受けた次第です。同時に支部役員も決まり、総勢十五名で支部を運営しています。

私を含め役員の方々も若い人達ばかりで不備な点も多くあります。第一目標であります活発で明るい支部作りを、第二に会員相互の親睦を図り末長く存続させていきたいと思っています。第三に支部作りを通して、母校のP・R、又、在学生の就職に関わる情報提供、ならびに後輩への良きアドバイザーとして、母校に貢献することが出来るならば幸いです。

右も左も解らぬまま支部作りを始めて、はやくも一年が過ぎようとしています。母校を忘れかけていた自分ですが、こうして支部作りを進めるに当たって、先輩、後輩と始めて会った方々なのに、やはり同じ中日本であるという事から親しみが湧いてきて、一度に多勢の友人が出来たようで大変嬉しく思っています。又、こんな身近に卒業生がいたのかと驚く事もあります。

昨年九月に開催した同窓会でも出席者から喜ばれ、役員一同自負している次第です。都合上ご出席出来なかった方々も多いと思いますが、本年も八月十日に第二回支部総会ならびに同窓会を開催したいと思ひます。支部の方々には前

後して御案内を差し上げますので、多数御出席下さるようよろしくお願い致します。

以上のように最低でも年一度の総会・同窓会を開催し少しでも皆様方に嬉こんでいただける支部にしようと役員一同頑張っていくつもりですので今後とも皆様方の厚い御協力を頂きます様、よろしくお願い致します。



静岡県支部

設立にあたって

幹事 白鳥元章

中日本自動車短期大学・校友会静岡支部の発足にあたり、静岡県在住のOB諸兄にお願い申し上げます。

中日本自動車短期大学も開学以

来二十年の歳月を数えています。しかしながら、校友会・静岡支部の活動は今だ活発とはいえません。校友会の活動を活性化するためには支部の活動が必要不可欠のものと思ひます。しかしながら現在活動している支部は、沖縄、広島、岡山等わずかであります。

静岡県出身者はすでに一千名に近づいていますが、支部活動は思うように動いておりません。現在神奈川においては支部設立の準備が着々と進んでおります。

静岡支部の発足に当たり、静岡在住のOB諸兄の御協力をお願い申し上げます。現在一期生の中島氏の協力を得、一歩でも前進すべく活動中でございますが、なにより思うように進まず苦勞致しております。皆様の御協力をよろしくお願い申し上げます。尚左記に連絡先等を記しましたので御連絡下さいますよう重ねてお願い申し上げます。

静岡市中田一〇八三の一
コープハイツ中田一―五
(静岡支部発起人事務局)
白鳥元章
☎(〇五四二)八三一―一四八

会員名簿のお知らせ



により昭和六十二年には開学二十周年を記念し総合名簿を発刊する予定です。

中日本自動車短期大学学友会は昭和五十七年、十五期までの総合名簿を完成し、昭和五十八年より昭和六十年まで毎年三月に単期名簿を作成し、OB諸兄には先輩・後輩・同期の学友との連絡等に、ご活用していただけることになりました。

名簿作成委員会では、毎年より良いものにするため万全の努力を致しておりますが、現在九千余名に及びOB諸兄の住所・勤務先等の変更には、なかなか十分な対応ができない状態になり大変ご迷惑をおかけ致しましたが、本年三月にコンピューター導入による整備

会報等の発送は名簿を使用して

おりますが毎年、相当数が宛先人不明として返送されてきます。住所・氏名・勤務先が変更された場合は直ちに、学友会事務局までご連絡下さるようお願い致します。又、その折にはご面倒でもO・B諸兄の学生番号を、学生番号不明の場合は入学年度・何組かをご記入下されば事務処理の上で大変助かりますのでよろしくお願い致します。また友人の消息をお知りの方も合せてご連絡下されば幸いです。

昭和五十七年に完成し販売しております総合名簿も残りわずかですが、在庫がありますのでご希望の方は左記までお申し込み下さい。尚、昭和五十八年より昭和六十年までの単期名簿は完売となりましたので御了承下さい。

総合名簿 定価 二,000円

〈申込み先〉

〒五〇五

岐阜県加茂郡坂祝町深萱三三二

中日本自動車短期大学学友会

事務局

☎(電話) 二六一七二二一

代議員総会のお知らせ

来年度は母校設立二十周年に当

り、諸々の記念行事が予定されています。また学内の施設・設備も改善、あるいは新設され、古き卒業生諸兄(失礼)におかれましては、イメージも相当変わっているかと思われます。時には母校をたずね、新しく変わりがつある所を見ていただければ存じます。

さて、昭和六十一年度の代議員総会が左記にて行われます。

代議員総会には、同窓生諸兄の参加(オブザーバー)も期待してあります。代議員の方々は、かならずご出席下さいますようお願い致します。

記

名称 中日本自動車短期大学学友会
昭和六十一年度 代議員総会

日時 昭和六十一年八月三十一日

十三時〜十五時

議代 昭和六十年事業報告

会計報告

昭和六十一年度

役員選挙

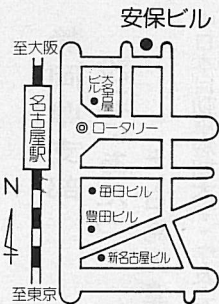
事業計画等

会場 中村区名駅三二五一九

安保ビル会議室

(名駅前)

(電話) 五六一九八三二



通信欄

現在、日産自動車整備専門学校で、学科授業の講師として、毎日頑張っております。

十五期生 長谷川誠

青年海外協力隊でアフリカに行く為、去年七月始め二週間お世話になりましたが、七月二十六日成田をたち、三十日にマラウイに着きました。そして、九月より仕事に入ったとの事です。(母より)

十四期生 平井重夫

長女が誕生し、二十一世紀に向けて大きく翔たいてくれるよう「未来」(みく)と命名しました。家族が一人増え、ますます仕事に頑張っております。

十二期生 平林明生

過日は、会報四号を送付いただきました。有難うございました。

進路(京都府警)は違ったけれど、いつまでも母校を愛する者の一人です。暑さ厳しきおり、皆様方のご健康を心よりお祈り申し上げます。 七期生 朝日一公

編集後記

本年は、開学二十周年を、来年に控えている年であります。母校も時代の流れと共に変貌しつつあります。

まずは、新総合グラウンド完成、学生の駐車場の改善、新実習棟の新築計画及び教育棟の増設工事。又、本学一年生の本年度の入学者総数は、七百七十名余に及びました。そして、電子機械コースの発足に基づき、現在の二年生対象に、実際の授業が開始されると同時に、開学二十周年を迎える六十二年三月には、それらの教育を受けた第一期卒業生が巣立って行くなど、数々の発展が伺えます。

そんな中で、おかげさまで学友会会報も、第五号を発刊することができました。開学二十周年を来年に控え、母校の増々の発展と学友会並びに会員のみなさまの増々のご活躍を祈念して会報後記の結びとします。